

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	門真市立こども発達支援センター 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 11日 ～ 2025年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数)	38
○従業者評価実施期間	2025年 3月 11日 ～ 2025年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援計画に沿った支援の提供	児童発達支援管理責任者とクラスごとの支援の進捗状況の確認を行っている。	クラス間だけでなく、支援の難しい園児についてはセンター全体で支援・サポートが行えるよう、情報共有や定期的なケース検討会を開催している。
2	定期的な面談を行い、必要に応じた助言や支援を行っている。	親子療育日以外にも、家庭訪問やイベントの開催を通じて、保護者と交流する機会を設定している。	ICTを活用し、オンライン面談も提案することで、就労している保護者にとっても面談しやすい環境を整えたい。
3	生活空間は清潔で、子どもたちが心地よく過ごせる環境になっていることや、こども達の活動に合わせた空間となっている。	整理・整頓・清潔・清掃を意識して実施している。毎月1回、環境整備を行い、園庭の環境についても見直しを行っている。	室内環境についても定期的に確認を行い、安全面に配慮した活動空間を提供していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の発達や支援内容に応じた、適切な職員配置を行っている。	支援技術や知識、経験が不十分に加え、人材確保に関する課題が存在している。	主任職員をフリー職員として配置し、柔軟な職員配置を行う。また、直接的な指導を実施し、療育技術の向上を図る。
2	こどもの特性に応じた専門性のある支援を提供している。	障がい特性に対する理解や知識が十分とは言えない。	内部研修計画を立案し、実施する。また、外部研修に参加して学びを深めるとともに、外部の第三者機関にアドバイスをいただき、客観的な視点から療育の質の向上を図る。
3	保育所や認定こども園などの地域交流の機会に参加している。	2024年度の地域交流は冬季に予定していたが、感染症の流行により、一部の園児のみの交流となった。	地域交流の開催時期を見直しを行い、全園児が参加できるように交流を行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 門真市立こども発達支援センター 児童発達支援

公表日 年 月 日

利用児童数 2025年 3月 31日

回収数 38

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	37	0	0	1		子どもの特性や人数に応じて柔軟に活動やプログラムを実施していきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	26	7	2	3	・こちらが期待しすぎていたのかもしれませんが、子供の人数に対して先生が少なく思ったよりもフォローが受けられていないと感じる日もあります。 ・親子通園をしていますが、わーっとなっている子が重なっていると一度も我が子に話しかけられないまま給食の時間になる日もあり、残念に感じてしまいます。 ・単純に児童3人に1人の先生でいいかは、児童の個性とかクラスのメンバーによつては大変そうにみえる。 ・児童2人に対して1人の職員さんが付いてくれると安心感があります。 ・担任がいつの間にか辞めてるので人足りてるのか心配になります ・補助で入っている先生によって朝の会や終わりの会がアカベラになるのは療育としてはどうなのかと感じている。 ・少しでもイレギュラーが発生すると人員不足となり前々からの予定さえなくなってしまうほどには足りていない。	職員配置に関しては、門真市の定める配置基準で配置しております。 2025年度は主任職員2名をフリーの職員として配属し、柔軟に対応を行っていきます。また、職員の指導も直接的に行い、療育の質の向上を図ります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	34	2	1	0	・視覚支援については、常に更新や改善の工夫がなされてゆくのが望ましい。	適切なアセスメントが行えるように、研修受講や外部指導者に入っていただき、個々の特性に合わせた療育を提供できるように行います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34	4	0		・急な痙攣等があるため、床に頭をぶつけてしまったりする子も多くいると思います。床を少しでも柔らかな素材にしていだけたら、安心できます。 クラスの床をクッションフロアなどにいただけると、痙攣等でひっくり返った時などに頭を打ちつけたりすることも減るのではないのでしょうか。	活動によって、フロアマットなど安全に活動ができるように環境の設定を行います。
	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30	6	1	1	・専門の先生が在籍している割に専門的なことをしてくれる回数が少ないと感じます。 ・PTなどの訓練を受けれる条件を下げたい。 ・とりわけ発達検査が杜撰で説明不足な上、並行通園中の自発との情報シェアにも積極的とは言えない。 ・まだ障害児に対して慣れていない、または経験が足りていない先生方も居られると思いますが、これから色々な子供達に触れ、保護者へのアドバイスなど出来るようになるのを期待しています。 ・若い先生が増えたけど、無理せず頑張ってもらいたいです。	専門職と連携を行い、療育の質の向上を図ります。
適 切 な	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	33	2	0	3	・一応個別支援ではない、と言われれば何とか納得出来る範疇。	支援プログラムに沿った支援の提供を行っていきます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35	2	1		保護者のニーズについては、再三述べたところで馬の耳に念仏状態に近い。あくまでも「センターのやり方」が貫かれがち。	保護者のニーズを汲み取り、改善を図れるように協議を行っていきます。

支 援 の 提 供	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	35	0	0	3		個別支援計画の説明の際に、丁寧な説明を行っています。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36	0	0	2	・親の意向でも、これは今子供にとって難しいなと感じたら、時期を見て始めていく感じで、無理にせず、ちゃんと子の成長に合わせてもらってありがたいです。	今後も保護者のニーズ、子どものニーズも踏まえ、アセスメントの基づいた、支援計画の立案を行います。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	31	3	0	4		他職種の連携や外部との意見交換や、交流の機会を設定し、子どもたちに興味関心の幅が広がる様な活動の検討や、個別支援計画に沿った、活動を提供していきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15	6	6	11	・もっと地域のこども達と触れ合える回数が増えればいいなと思います。 ・交流から差別や偏見が減っていく事もあると思うので、積極的にお願いしたいです。 ・もう少し関わる機会が増えたらいいと思います。 ・大和田幼稚園の見学は毎年あるが、時間が合わず自宅の位置や送迎時間的に参加が実質不可能だった。	今年度は全クラスの園児が保育所や幼稚園等、地域の交流の機会を提供をできるように行います。 ふれあいの会での幼稚園や保育園の見学も引き続き行っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	34	3	1	0	・入所しないと分からないことが多々あった（その都度、先生や同じクラスの保護者さんに質問していた） ・園児やその家族の個人情報の取り扱いについて、具体的ではない不十分な説明しかないままに、おそらく就学相談等でも機関を超えて殆ど全ての情報が勝手にシェアされ得る状態である。	保護者の方に理解していただけるように努めてまいります。 個人情報の取り扱いに関しては、「門真市個人情報の保護に関する法律施行条例」及び門真市の個人情報の保護に関する法律施行細則」に沿って対応を行っております。また、外部に情報を共有する際も、事前に保護者の方に了承を得るようにしています。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28	2	3	5	・こちらが気づいてないだけで、情報提供されているのかもしれませんが、研修会など参加できるものは参加してみたいです。 ・少なくともうちについては、ペアトレの案内を受けたことや、利用したことがない。	研修会の案内等はICT（おがスマ）を使用して、保護者への周知を行っています。 またふれあいの会の時間で勉強会の開催も計画していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	35	1	2	0	・今年度はあまり困り事を相談できなかった。 ・お便り帳には出来る限りの詳細や具体例を毎日書いたが、とりわけ発達に関する点で、並行通園している自発との情報シェアに積極的ではなかった。※自発側からセンターに働きかければ応じる、レベル。	困りごとや悩みを相談できる関係性を築いていけず申し訳ありません。 子どもたちの成長や日々の様子を共有していきながら、日々のコミュニケーションをおたよりやおがスマ、親子療育日の中で大切にしています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	1	0	1	・面談は定期的にあるけれど、助言をもらおと思えなかった。 ・運営が変わる以前からの話にはなるが、何か問題が発生した際に、面談は設けてはくれるが、根本的な改善に至った例が殆どなく、うちの他にも泣き寝入りした家庭は少なくない。（その殆どがセンターを辞めている。）	子どもの成長につながるような適切な相談援助ができるように、職員の専門性の向上や信頼関係の構築に努めます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	2	1	1	・もし、御自身のお子様や家族が、同じような扱いを受けたらどう感じるか、といった常識的な良識がぶっ飛んでしまっているのではないかと疑わずにはおれない場面が多々遭遇している。障がいを抱える家庭だからと、当たり前のように不条理や心無い発言等を受け入れなくてはならない謂れはないと思ってしまう。 ・子供だけでなく、保護者への配慮もしていただき助かってます。	子どもたちだけでなく、保護者、その家族をサポートしていくように努めてまいります。

	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	5	3	13	きょうだいへの支援についてはされていない。 サマーフェスティバルは、兄弟も連れて楽しめら良いと思います。 きょうだい向けのイベントはほぼ無いと感じます。	きょうだい児が参加できるイベントは検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	4	2	5	・申し入れをした際、すぐ動いてはくれたが具体的な対策対応は聞けず終わりその指導者はその後、会っていても挨拶してくることも無く挨拶もできないのかと感じた。すれ違っている際は忙しくとも一言挨拶はするべきだと思います。本人はわかっているかと思っています。	適切な対応ができておらず、申し訳ございませんでした。 具体的な対応から、実施した経過まで保護者の方に報告を行っています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34	3	2	1	・おしゃべりができる子はバスで先生を引き留めずと話しているが、しゃべれない子には殆ど話し掛けない。しゃべれないからといって、話しかけてほしくないわけでも、好きなテレビ番組や絵本や遊びがないわけでもないだろうに、可哀想に感じた。 ・連絡帳で詳しく日々の事を書いていただいてありがたいです。	園児一人一人にあったコミュニケーションを図ることができるように努めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	29	1	0	7		ホームページやおがスマ（ICT）を利用して、日々の様子を定期的に写真やおたよりでお知らせしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	32	1	1	4	・おそらくはザル状態。しかし、そもそも異議を申し立てることが可能な規約内容ではない。	個人情報の取り扱いに関しては、「門真市個人情報の保護に関する法律施行条例」及び門真市の個人情報の保護に関する法律施行細則」に沿って対応を行っております。また、外部に情報を共有する際も、事前に保護者の方に了承を得るようにしております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	33	3	0	2	・毎月避難訓練は実地されているが、実地した内容の説明や、具体的な園の対処方法、実地された内容によっての具体的な子どもがとるべき行動の指導などあった方がよいのではと感じます。形だけのイベントになっている印象です。	避難訓練や普段の療育の中で、有事の際の行動を指導をしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	35	0	0	2		月に1回有事に備えて、避難訓練を実施しています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	1	1	5	・実際に怪我をしたので。 緩衝材(プチプチ)で角を覆われていたが実際はエアークッションが機能していませんでした。娘の怪我が起きてから見直されましたが、怪我をしてからでは遅いです。日頃から安全の確認をお願いします。	安全計画を基に、室内、室外の安全管理を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	3	0	3		事故が発生した場合は、迅速に保護者に報告を行います。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	34	2	0	2	・今は怖いだと言っているが、先生に伝えて、子供とお話してもらうように伝えました。	安心してセンターに登園できるように、不安や怖いと感じている、要因を解消していきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	31	5	2	0		日々の療育の質を高め、子どもたちが楽しんでセンターに通えるように努めています。

満足度							・色々、今後も不安はあります。 ・午後の預かり保育が始まれば、さらに嬉しいですよ。 ・正直、物足りなさを感じています。 ・いろんな壁があり、難しい事もあるでしょうが、広くて立派な建物がある。それだけでもだいぶ環境はいいはずなので、中身、内容を充実していただきたいです。 ・親子通園の先生には感謝をしており、通ってよかったとは思っています。 ただ単独通園の先生の中には先生同士の会話(内容も聞こえてきますが、今ではなくてよさそうな業務連絡や私用の会話が多いです)ばかりしていてあまり子供と会話をしていない方が見受けられ、今後のことを考えると心配になります。 ・先生をあまり信用できなかったのも、困り事を相談したりできず、満足はできなかった。 ・今後益々良くなってくれたら良いと強く願う。	センター職員としての行動指針を作成し、センター職員としての自覚を持って、職務に取り組んでまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	36	2	0	0	その中で、保護者の方には安心して子ども達をセンターに預けていただけるように努力し、改善に努めていきます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
門真市立こども発達支援センター 児童発達支援		年 月 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	2	こぐまクラスを2つ部屋に分かれるのが工夫している点	保育室のスペースには限りがあるため、活動の内容や人数に応じた柔軟な空間の使い方を工夫している。今後もさらなる有効活用や環境整備の工夫を重ね、より快適な保育環境を目指していく。また、トイレの設置数についても園児の利用状況に応じて見直しを行い、円滑に使用できる環境づくりに努めていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	4		職員数とご利用児の特性に応じた支援体制の最適化に向けて、配置の工夫や支援の質の向上に努めている。今後も必要に応じて体制の見直しを検討していく。また、クラス間での支援方法や工夫を共有し、相互に学び合える機会を設けることで、支援の質を高めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	3		障害特性により適した環境の整備に向けて、今後さらなる改善が必要と感じている。現在は各クラスで構造化に取り組んでおり、より一貫性のある支援ができるよう工夫を重ねている。安全面においても、仕切り戸や鍵の設置について見直しを進め、安心して過ごせる環境づくりに努めていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	2	消毒や整理整頓に心がけている 毎日清掃されるところがいい	トイレの数や大きさ・高さが合わない 男女共有であることに不便さを感じる
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	2	個別のクールダウンの空間 スマイルを活用している	人員不足の為に、個別対応が難しい こどもの状態によって使えるのはいいが、職員の数によって使えないことがある
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	4		人事考課制度や、面談の機会を設定し、職員の意見を聞きとりをしているが、職員会議で共有が遅くなってしまうことから、共有から改善を迅速に行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	4	保護者会の意見を聞いている 面談をして改善に向けている	保護者からのご意見やご要望について、迅速に職員間で共有し、対応に活かせる体制づくりが今後の課題と感じている。また、保護者の声を大切にしつつも、職員の業務負担とのバランスを考慮し、持続可能な支援体制を構築していく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	4		半期ごとに面談の機会は設けられているが、職員の業務負担や新規事業に関する意見が十分に反映されていないと感じられる場面がある。今後は、意見を具体的に取り入れる仕組みやフィードバックの見える化を進め、職員の声を活かした組織運営を目指していくことが求められる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	5	面談で評価を受け改善に向けている	第三者評価を今後実施していき、意見を基に改善に努める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	1		現在実施されている研修は施設運営に必要な内容に限られており、実際の支援現場で効果を実感できるものが限られている。今後は、現場ニーズに即した実践的な研修や、職員のスキル向上に直結する内容の研修を取り入れていくことで、より効果的な学びの機会の充実が期待される。

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	3	児発管が作成する個別支援計画を現場の保育者が助言や情報提供している。	支援プログラムの設定内容については一覧表にまとめ、関係職員間で共有を図る必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13	1	保護者との面談で支援内容を共有している	担当者間で十分に共有されず、保護者からのご要望のみが反映された支援計画となってしまう場合があり、今後は多職種での話し合いの機会を確保し、客観的な視点を交えた計画の作成に改善していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14	0		現在、支援計画の作成においては、児童発達支援管理責任者以外の保育士や児童指導員が主導的に進めているケースも見受けられる。計画の質をさらに高めるためにも、児発管が主導に関わり、多職種での協議を行えるよう、検討期間も十分とれるようなスケジュールに改善していく。
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	0		現在、支援に関する情報は同一クラス内でのみ共有されており、クラス担任内での情報交換が主となっている。今後は、他職種との連携やクラス間での共有を強化し、より効果的な支援ができるよう、定期的な話し合いの場で改善していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	2	セラピストの評価がある	インフォーマルなアセスメントの共有が不十分なため、職員会議等で職員間で共有を図る。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	0	こどものために時間をかけて作っている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	4	担任間で、登園児に合わせた活動内容を相談・共有している クラス単位で行っている 話し合いをする時間をもっている	クラスごとでの立案になるため、朝礼で活動の共有を図り、組織全体で活動を見直していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	3	リーダーを週交代にしていることで、活動内容の偏りがない クラス担任で、週案を立案して、検討する機会を設けている	特性のある子どもの状態により、支援が固定化してしまうことがある。そのため、個々の子どもの変化に柔軟に対応できるよう、支援方法を定期的に見直し、適宜調整を行うことが求められる
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13	1	相談会などを実施し個別支援も行っている	的確なアセスメントができるように、特性の理解や知識を深めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	2	朝礼後に調整している その日のデイリーをホワイトボードに書き込み、クラス間で共有している	クラスごとでの立案になるため、朝礼で活動の共有を図り、組織全体で活動を見直していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	3		業務に追われて休憩を取る時間が確保できないこともあり、業務に困難を感じている職員も少なからずいる。チーム連携を行い、業務の負担軽減や休憩時間の確保を含め、職員の健康管理と働きやすい環境作りが今後の課題である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	2	支援の前に前回の記録を読むようにしている 記録は常に心がけている	月に1回クラス会議を行い、支援の振り返り、進捗状況の確認を行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	2	不定期的ではあるが行っているが今後は定期的に見直していきたい	令和7年度から相談支援専門員の1名増を図る。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	4		今後は、当者会議は臨機応変に実施するとともに、定期的な開催も検討し、職員間での情報共有や連携をより強化していく要改善して
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12	0		

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	2	電話連絡や、訪問、書類などで連携をとっている	現状、地域の学校において合理的配慮が十分に行き届いていないように感じるため、今後は、インクルーシブ教育の推進に向けて、地域の学校と連携し、配慮の必要性を共有していくように改善していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1		地域の小学校の情報共有を図るための、申し送り書はセンター独自の書式のため、学校側の意見も確認しながら、必要な情報提供がスムーズにできるように改善を図る。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	10	3		センター職員として、センターの役割、とりわけ地域支援の役割を十分に理解していない者への対応として、職員が、地域との連携を強化し、センターが果たすべき役割や機能をさらに具体化することで、職員の理解を深めていきたい。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	3		職員が積極的に研修に参加できるよう、参加のための費用や休暇の運用について一定の基準を定めて対応している。また、学びの機会に関する情報を積極的に収集・提供することで、職員一人ひとりの専門性の向上につなげていきたい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	0		協議会の内容や目的についての周知を図り、職員が関心を持って参加できるように改善していく。
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	5	同法人内の施設だけではなく 地域との連携を踏まえ 学校や他園、事業所ども幅広く交流の機会を設けていくことが望ましいと思います	
保護者への説明	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	個別支援にてコミュニケーションをとっている 連絡ノートや電話で詳細を伝えるよう心がけている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	0		ペアレントトレーニングは、これまで実施状況についての周知が十分ではなく、参加の機会を得ることができなかった。今後は保護者や職員への情報共有を図り、参加しやすいように改善していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14	0		支援計画の説明については、限られた時間の中で行われることが多く、保護者が内容を十分に理解しにくい場合がある。今後は説明の時間を十分に確保し、丁寧な説明と意見交換ができるように改善していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	1	ふれあいの会などを実施している	兄弟同士での交流機会はないため、検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	1		間接的に伝わってきた内容についても、関係職員が他の職員に助言を受けながら状況を把握し、適切に対応できるよう努めている。

等	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11	3	アプリを使い様々な情報を発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	1		現在、決裁および供覧ファイルにはクリアファイルを使用しているため、外部から内容が見える状態となっている。今後は情報の機密性やプライバシー保護の決裁等については、内容が見えないファイルへ切り替えをしていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	アプリを使ったり直接顔を合わせてコミュニケーションをとっている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6		子どもの安全を最優先に考えており、現在は地域住民にご参加いただくような行事の実施は控えている。今後は、安全面に十分配慮したうえで、地域とのつながりを深める機会についても検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	0	毎月防災訓練などを実施している	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	2		避難訓練は実施しているが、救出の訓練はできていないため、検討していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	0	調理師と連携を取れている 子どもの状況をケースで確認している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	3		避難訓練や不審者対応訓練など、安全に関する訓練は毎月1回実施しており、職員の意識向上を図っている。今後は、より実践的かつ多様な想定に基づいた訓練内容を取り入れ、子どもたちの安心・安全をさらに充実させていけるよう取り組んでいく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	3		毎月の避難訓練の報告は行っているが、安全計画の説明までは不十分ではあるため、周知を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	2	夕礼で報告している 共有して、改善に努めている	ヒヤリハットは書面が複雑で形骸的なものに留まり、職員全体周知には至っていないと思います。 日常的にもっと起こり得る状況を 書面にしやすい形とし、職員がいつでも目にしやすい管理の方法に替えていくことで ヒヤリハットの意味も高められるのではないのでしょうか。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	2	療育の場面の振り返りシートを使用し、定期的な振り返りを実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	3		現状、身体拘束を必要とするケースがないが、必要な場合では組織として、協議し対応を行っていく。